

SDGs / ダイバーシティの取り組み

SDGsの取り組み

持続可能な開発目標（SDGs）とは、17のゴール・169のターゲットから構成され、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指し、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓う国際目標で、2015年9月の国連サミットで採択されました。

中央大学としても持続可能でよりよい世界の実現に向けて積極的に取り組んでいます。



中央大学のSDGsに対する近年の取り組み

SDGsに対する取り組みは、中長期事業計画「Chuo Vision 2025」における重点政策としても掲げ、2020年12月に中央大学SDGs宣言および中央大学学長声明を発売しました。さらに、SDGsに資する研究基盤の整備や、学内ネットワークの強化などを進めています。

■ダイバーシティ推進

学ぶ意欲のある人に差別なく学修環境を提供する「中央大学ダイバーシティ宣言」の下、障害、ジェンダー・セクシュアリティ、グローバルという3領域にわたる包括的な環境整備と学生支援体制の構築に取り組んでいます。

■SDGsを実践するビジネス人材育成教育プログラム

奥多摩地域においてまだ活用されていない地域資源を特定し、中央大学近隣市の企業群に潜在する未利用技術等と組み合わせることで、市場性の高い商品・サービスの企画を立案し実現するための教育プログラムを実施しています。

■学際的教育プログラム「FLP」での取り組み

SDGsに関するシンポジウムやパネルディスカッション、サマースクール等の実施により分野横断的な学びを展開しています。

■中央大学SDGsアクションプランアワード2023の開催

SDGsに資する学生の主体的な活動によって実現されるアイデアを顕彰する事業として、2023年10月28日に本選審査（プレゼンテーション審査）を行い、最優秀賞、優秀賞、協賛企業・団体賞を決定しました。

■「2023年度中央大学SDGs報告書」の発行

SDGsに関する本学の取り組みをまとめた、「2023年度中央大学SDGs報告書」を発行し、本学公式Webサイトで公開しました。

ダイバーシティ推進の取り組み

多様な背景、価値観を持った人が共に学ぶ「場」である大学において、すべての学生、教職員が尊重され、のびのびと学び働けるよう取り組んでいます。

中央大学ダイバーシティセンター

本学は、2020年4月にダイバーシティセンターを発足しました。「中央大学ダイバーシティ宣言」に基づき、「学びたいという希望を持つすべての人びとが差別なく集い、のびのびと学ぶことのできる学修環境」を作るため、困りごとや障壁に直面している学生等に対して、学内関係部署や学外の資源と連携して適切な調整を図ることを任務としています。

センターでは、①グローバル領域（国籍、民族等）、②ジェンダー・セクシュアリティ領域（性別、性自認、性的指向等）、③障害領域（身体障害、内部障害、難病等）についての相談、調整、環境整備を行います。

ダイバーシティウィーク

ダイバーシティに関する取組みを広く学内に共有するとともに、ダイバーシティ推進に対する意識・認知度を高めることを目的としてダイバーシティウィークを開催しています。

2023年度は、「バリアってなんだろう？」をテーマとしてワークショップ、講演会、映画上映会等のイベントを行いました。

学生支援体制の構築

次のような活動を通して支援体制を構築しています。

- ・学生支援を専門とするコーディネーターが8名在籍し、学生、生徒、教職員からの相談に応じる
- ・障害のある学生をサポートする学生アルバイトスタッフの募集・養成
- ・イベントを通した啓発活動
- ・マイノリティと感じている学生の居場所作り
- ・教職員研修を実施し、知識と理解をより深める

具体的支援として、ノートテイク支援、専門スタッフ（グローバル領域／障害領域／ジェンダー・セクシュアリティ領域）による助言や情報提供を行うほか、精神障害、発達障害に関連する事案は、主として各学部のCSW（キャンパス・ソーシャルワーカー）や学生部学生相談室の嘱託精神科医、カウンセラーとの連携を行います。

このような連携により、障害のある学生や、性的マイノリティの学生、様々なルーツを持つ学生に、必要な支援を提供し、安心して学ぶことのできるユニバーサルなキャンパスを実現します。



居場所となる「Dスクエア」